

新型コロナウイルス感染症の 県内発生について

その6

和歌山県福祉保健部技監 野尻 孝子

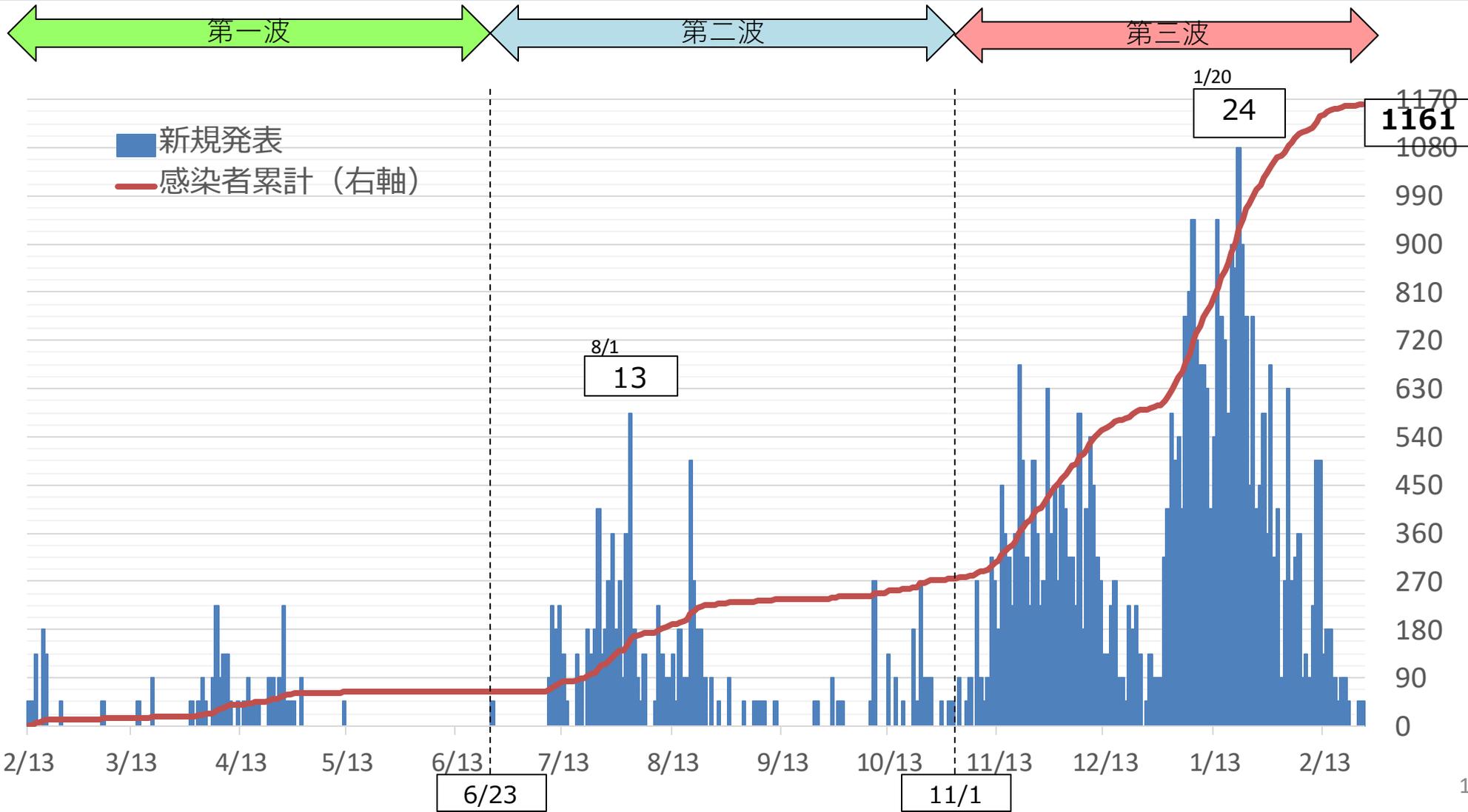
2021年2月25日



和歌山県の感染者の推移

令和3年2月24日発表分まで
(1,161件)

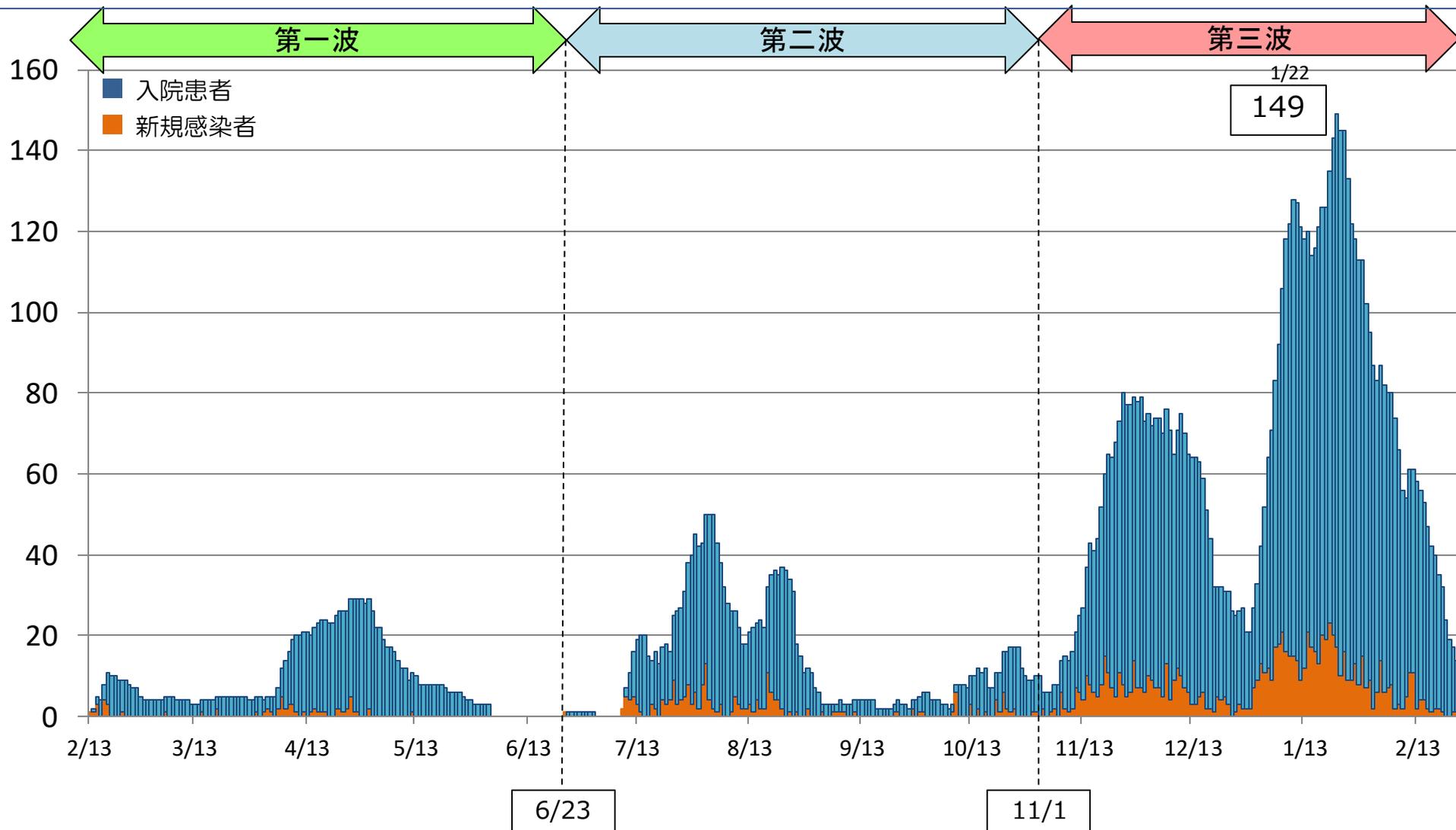
- 第一波より第二波、さらには第三波の方が新規感染者は増加している。特に、11月から始まった第三波ではクラスターが複数発生したことから一日の新規感染者は10人を超える日が多くなり、感染者は急増した。
- 年末年始に感染者が急増し、令和3年1月20日には一日の新規感染者の最大である24人となった。



和歌山県内の入院患者・新規感染者の動向

令和3年2月24日発表分まで

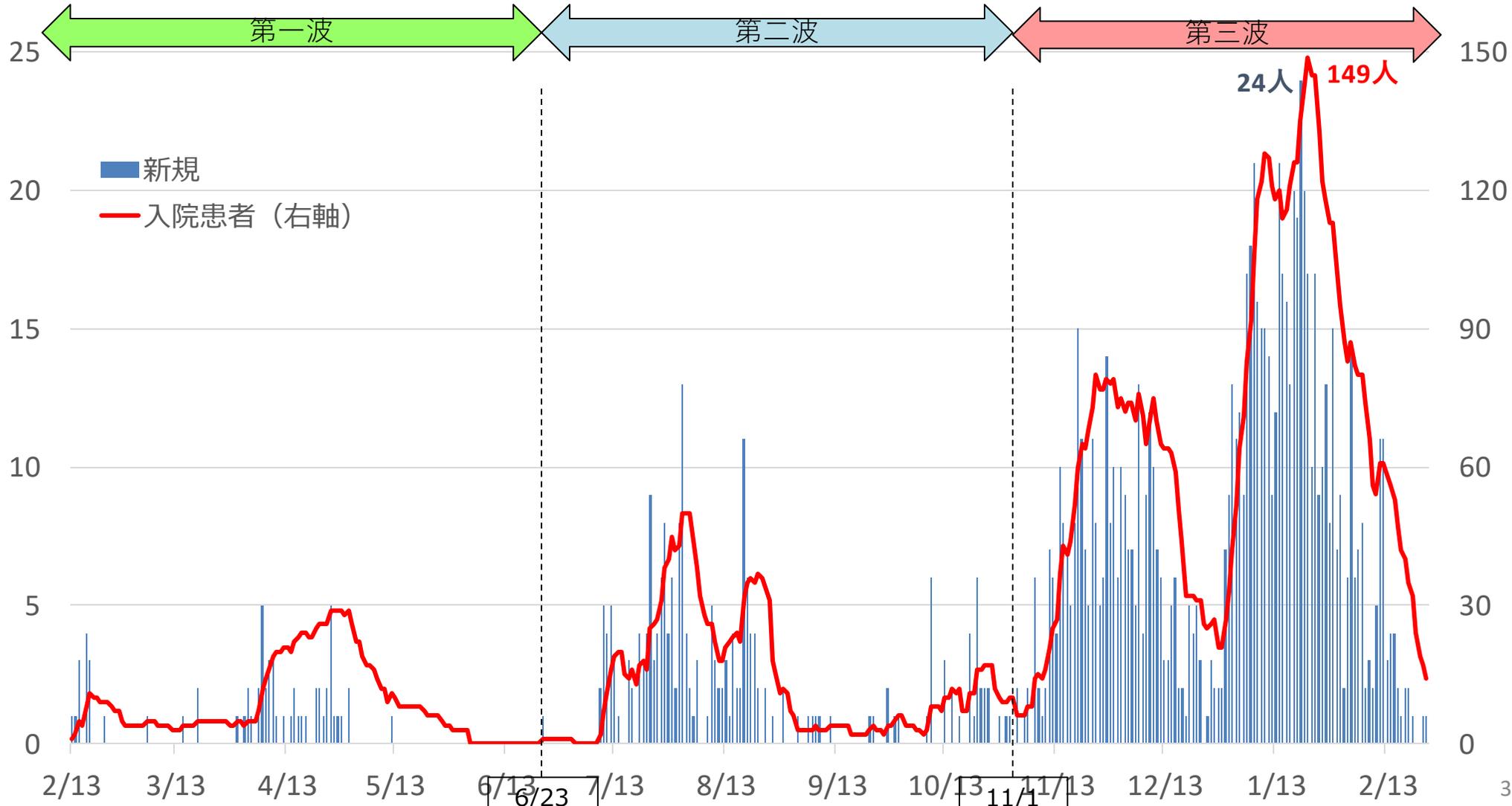
- 第一波より第二波、さらには第三波の方が新規感染者は増加し、入院患者も急増している。
- 年末年始に感染者が急増し、令和3年1月20日に一日の新規感染者数の最大である24人となるとともに入院患者数は、1月22日に一日の入院患者数の最大である149人となっている。



和歌山県内の入院患者・新規感染者の動向

令和3年2月24日発表分まで

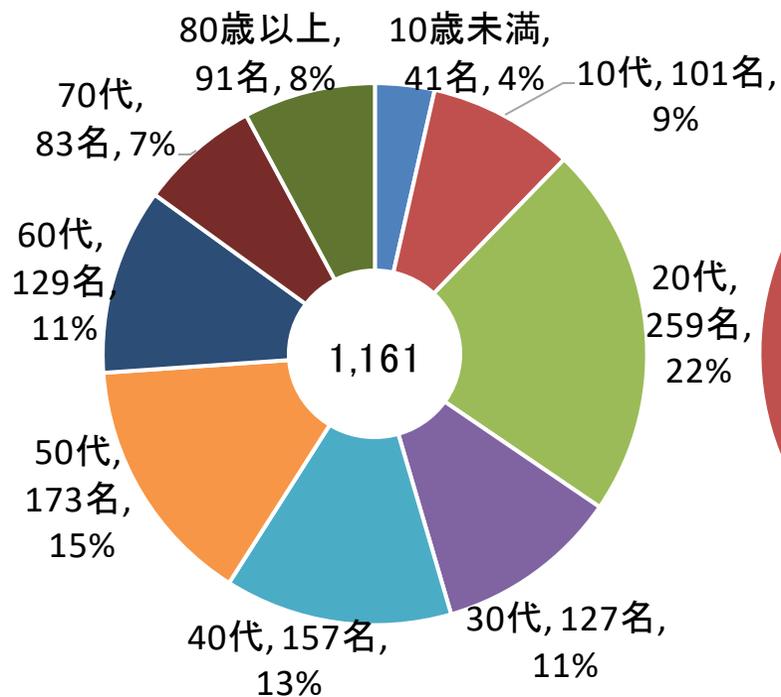
- 第一波より第二波、さらには第三波の方が新規感染者は増加し、入院患者も急増している。
- 年末年始に感染者が急増し、令和3年1月20日に一日の新規感染者数の最大である24人とともに入院患者数は、1月22日に一日の入院患者数の最大である149人となっている。



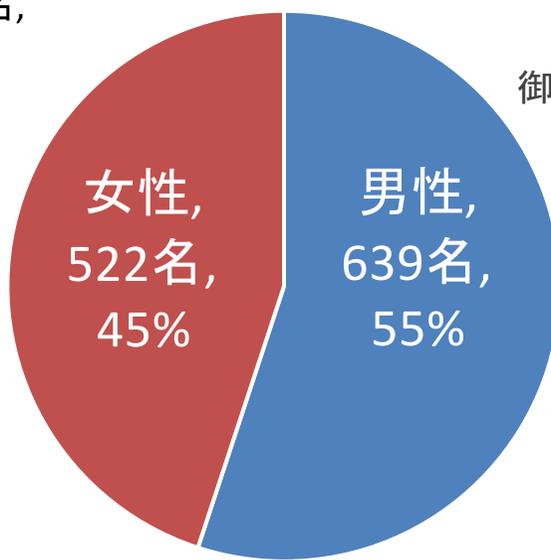
感染者の年齢構成等 (令和3年2月24日現在 n = 1,161名)

- 感染者の年齢は30代までが約半数で、40代、50代が約3分の1、60代以上の高齢者が約4分の1となっている。20代が最も多い状況であるが、20歳未満は約1割で少ない。
- 特に、重症化しやすい80代以上は8%となっている。
- 性別では、男性の方が女性より多い。

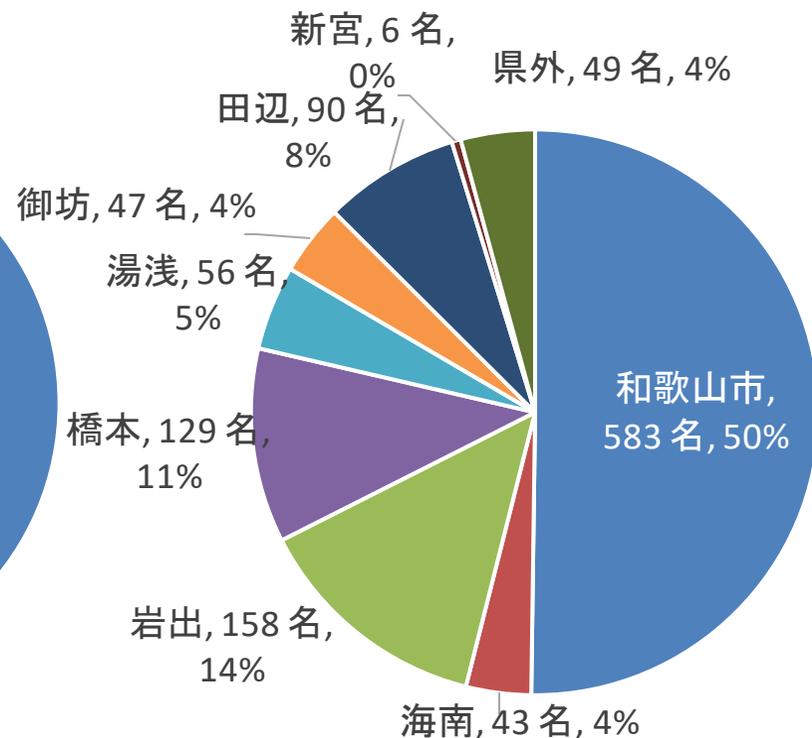
年代



性別



保健所別



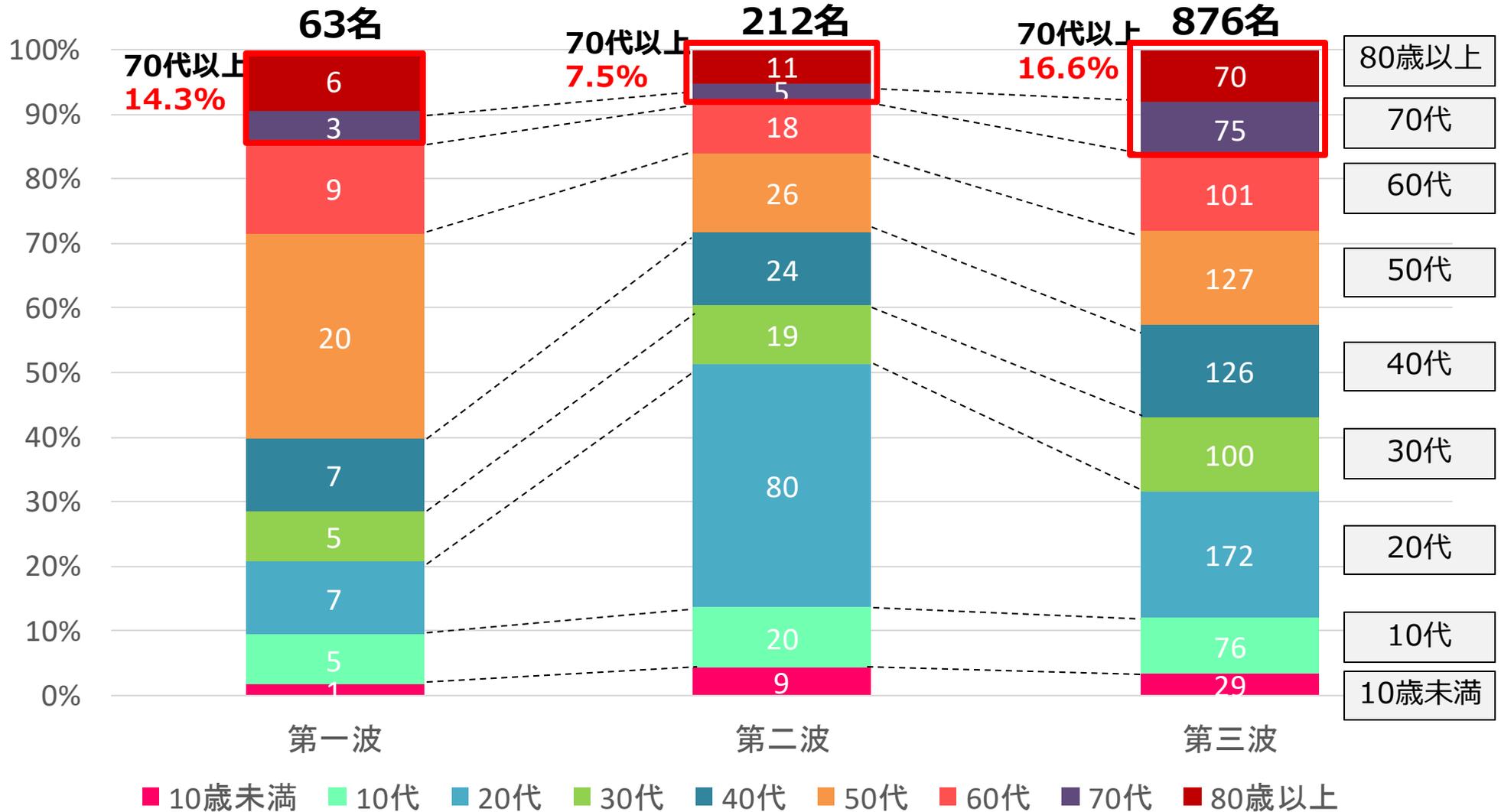
本県の新型コロナウイルス感染症の分析

～令和3年2月15日

県内の年齢別感染者数

(令和3年2月15日発表分まで)
1,151名

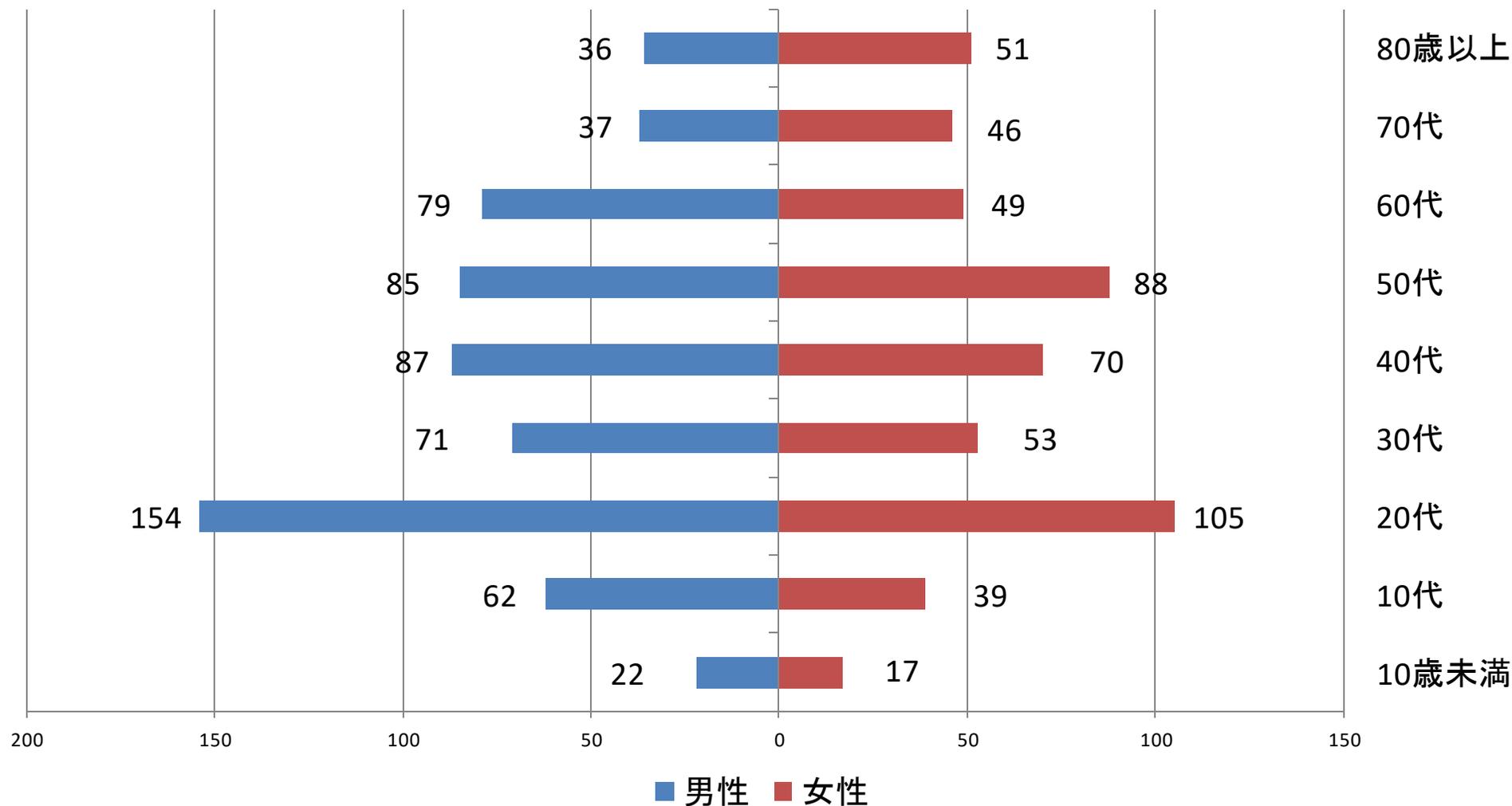
- 第一波では感染者の年代は50・60代が中心であったが、第二波では、20代以下の若者が中心となった。
- 11月から始まった第三波では、全年齢に感染が広がっている。また高齢者と小児の患者数が増加している。



年代別・性別感染者数

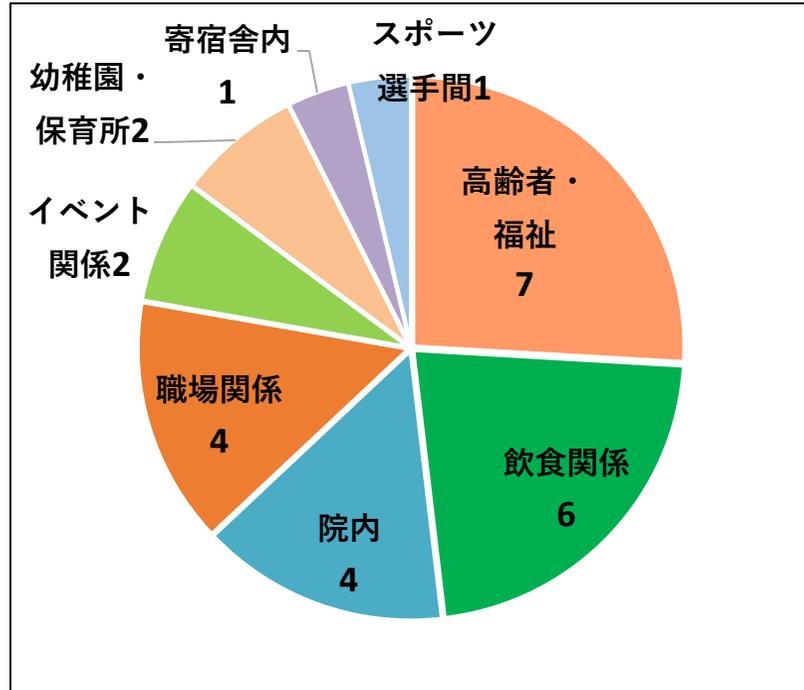
(令和3年2月15日発表分まで n = 1,151名)

- 男女ともに、20代が最も多く、次いで、男性では40代、女性では50代が多くなっている。
- 多くの年齢層で男性の方が多いが、70代以上では女性の方が多くなっている。

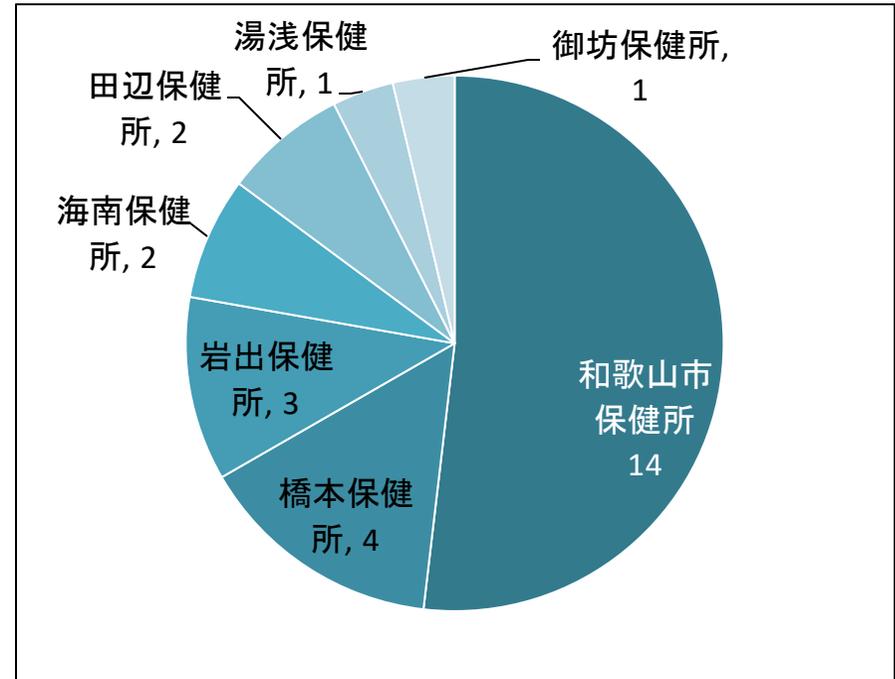


種別別、保健所別、発生確認月別クラスター数

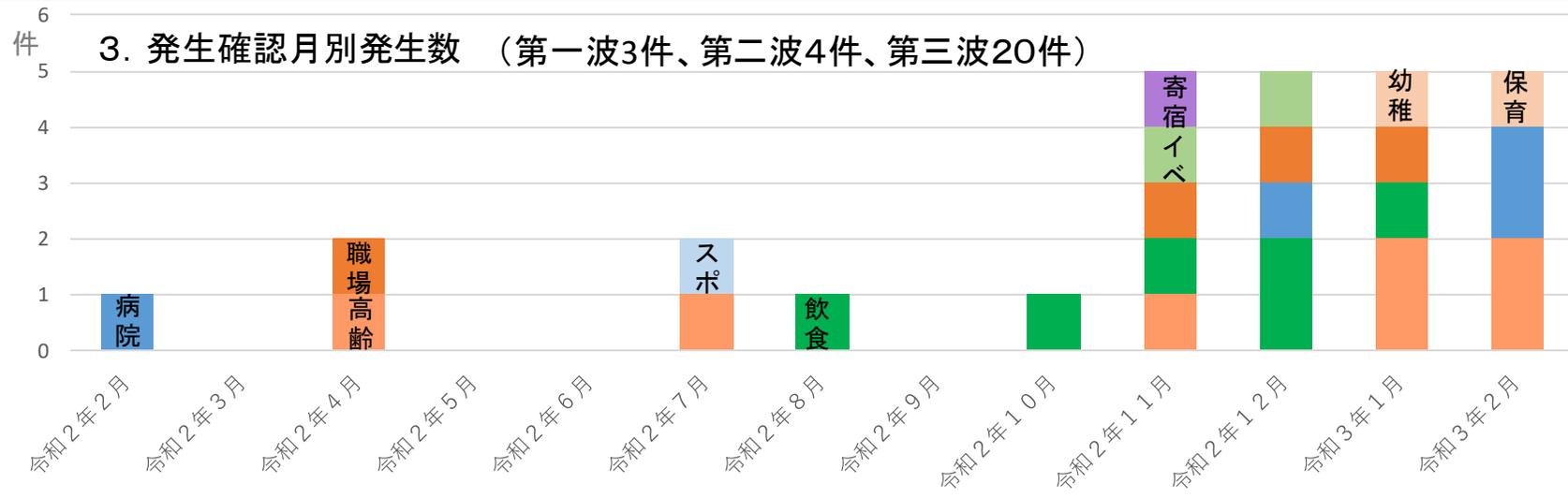
1. 種別別発生数



2. 保健所別発生数



3. 発生確認月別発生数 (第一波3件、第二波4件、第三波20件)



濃厚接触者等の感染状況

(令和3年2月15日時点)

第一波

第二波

第三波

全体

当初判明者



27名

(県外カウント1名を含む)



88名

(県外カウント2名を含む)



341名

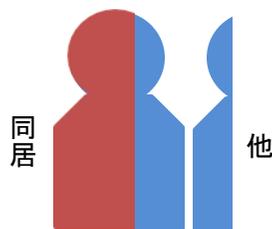
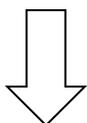
(県外カウント14名を含む)



456名

(県外カウント17名を含む)

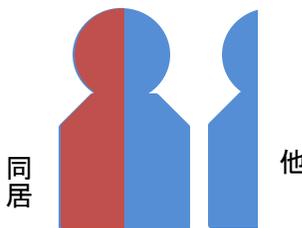
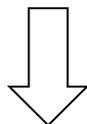
関連判明者



37名(うち同居19名)

1.37

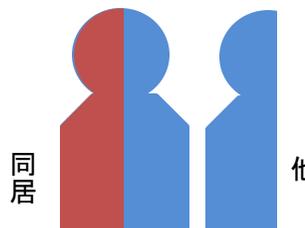
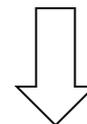
(同居0.70 他0.67)



127名(うち同居51名)

1.44

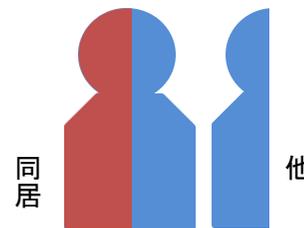
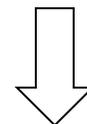
(同居0.58 他0.86)



548名(うち同居180名)

1.61

(同居0.53 他1.08)



712名(うち同居250名)

1.56

(同居0.54 他1.00)

主なクラスター
・
件数

- ・ 病院
- ・ 学校

計3件

- ・ デイサービス
- ・ ダイニングバー

計4件

- ・ 販売イベント
- ・ 高齢者施設
- ・ 病院

計20件

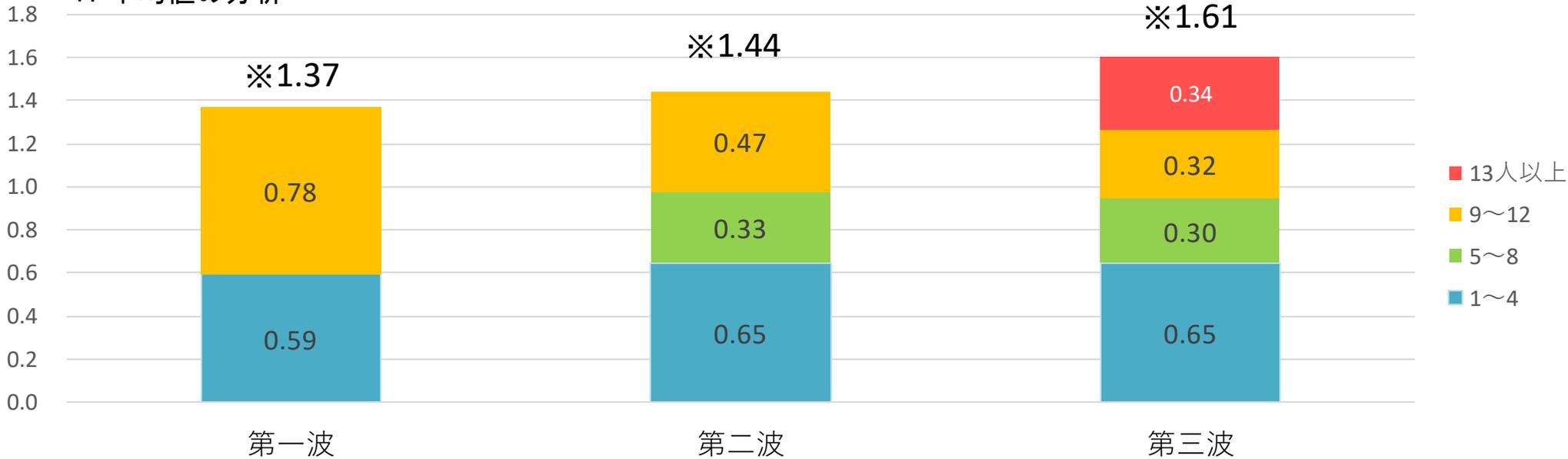
※当初判明者の発表日により分類 8

濃厚接触者等の感染状況

(令和3年2月15日時点)

- 当初陽性者が判明してから濃厚接触者等にPCR検査を行い、確認した感染者数を第一、二、三波で比較した。
- 感染者数の平均値※は、第一波より第二波が、さらに第三波の方が高い。これを詳しく見ると、第二波では第一波より感染者数が5人以上の件数による、第三波では9人以上、特に13人以上の件数によるところが大きい。
- これは、主としてクラスター発生数が第一波で3件、第二波で4件、第三波で20件と多いことによる。県外からの持ち込み例が増え、さらに感染しやすい環境や活発な行動等によりクラスターとなりやすくなっている。

1. 平均値の分析



2. 当初陽性者判明後に確認した感染者数

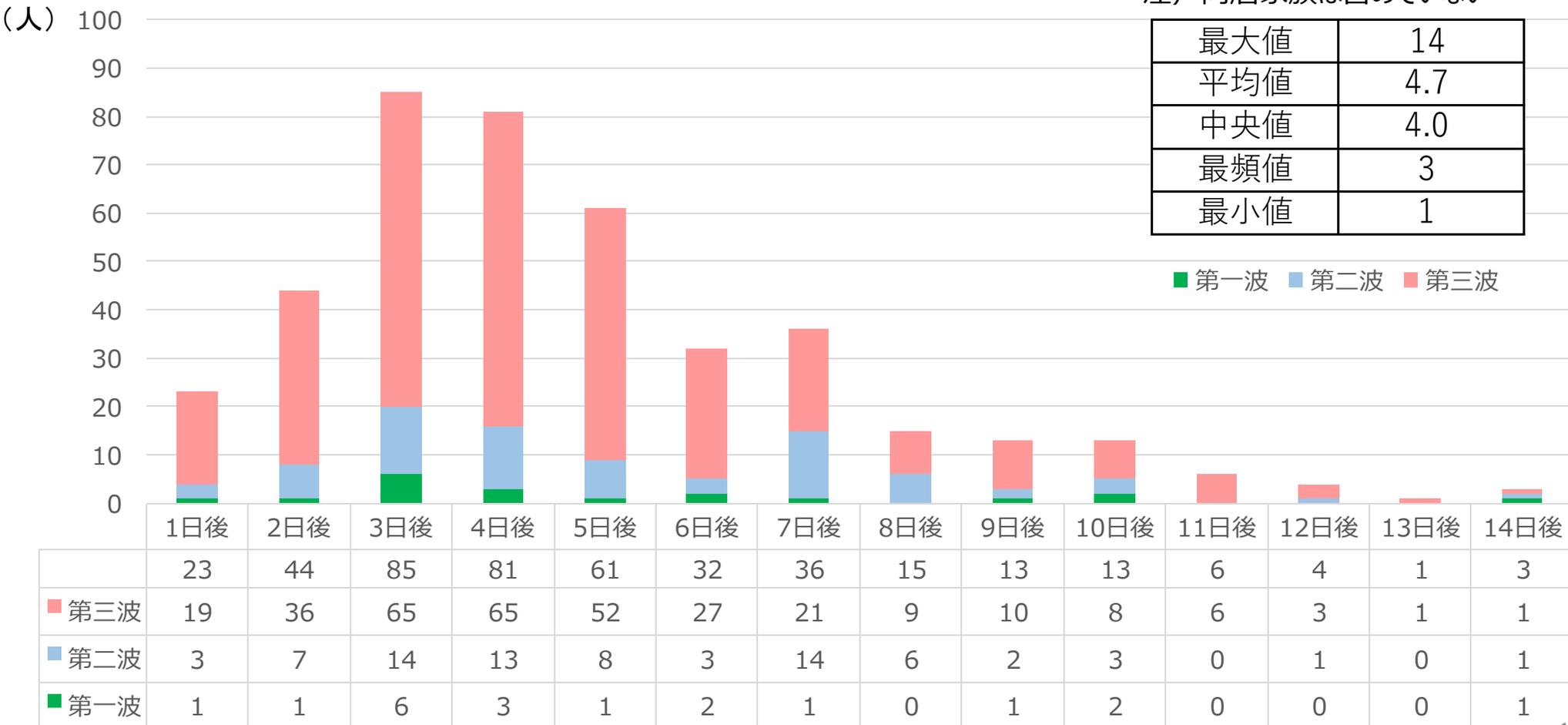
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	合計
第一波	17	3	3	1	1						1	1											27
第二波	51	13	8	4	4		1	1	2		3	1											88
第三波	189	57	33	14	14	5	4	4	3	4	3	4			1	2	1	1	1			1	341

新型コロナウイルス感染者の曝露を受けてからの発症日（推定）

（令和3年2月15日発表分まで）

- 新型コロナウイルス感染症の患者が曝露後何日後に発症しているかをみた。曝露が推定された対象者417人についてみると、曝露3日後が最も多く、中央値4日後、平均値4.7日後であった。最小は曝露1日後であり、最大は曝露14日後であった。ほとんどは曝露10日後以内であった。なお、同居家族は曝露日の特定ができないことから対象から除外している。発症は時間単位での特定はできていない。発症 = 発熱としていない。
- 第三波では曝露11日後以降が11人いた。

注) 同居家族は含めていない



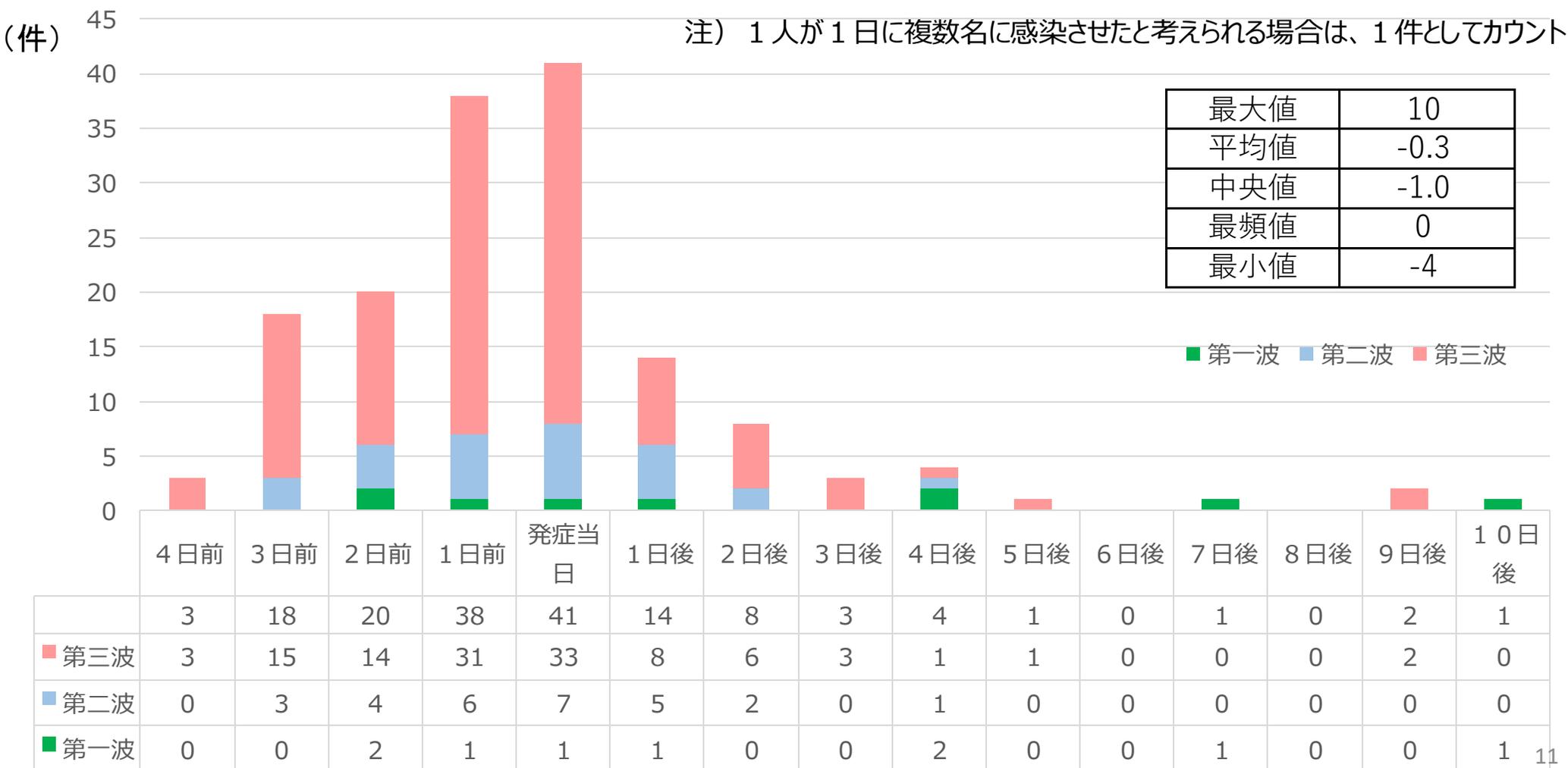
最大値	14
平均値	4.7
中央値	4.0
最頻値	3
最小値	1

■ 第一波 ■ 第二波 ■ 第三波

新型コロナウイルス感染者が他者に感染させたと推定されるタイミング（推定）

（令和3年2月15日発表分まで）

- 新型コロナウイルス感染症の患者154人について発症の何日目に他者に感染させたかをみた。発症当日が最も多く、中央値は発症1日前で、平均値は0。3日後、最小は発症4日前で、最大は発症10日後となっていた。なお、感染者1人が同日に複数の人に感染させた場合は1件とカウントしている。発症は時間単位での特定はできていない。発症＝発熱としていない。
- 第三波では発症4日前が3件あったことから、感染者との接触状況を十分考慮して積極的に検査することが重要。

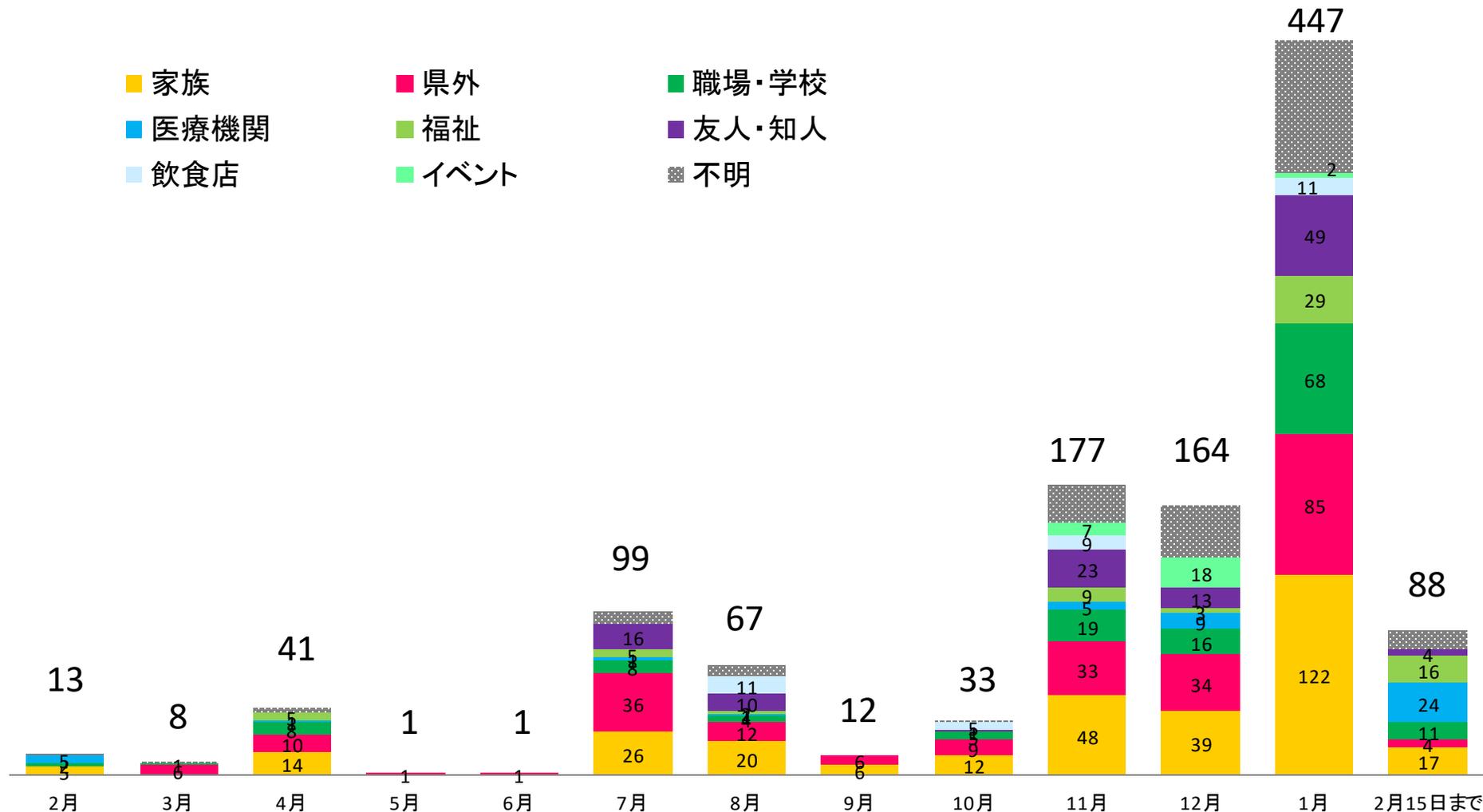


最大値	10
平均値	-0.3
中央値	-1.0
最頻値	0
最小値	-4

■ 第一波 ■ 第二波 ■ 第三波

月別感染経路 (2月15日現在 n = 1151例)

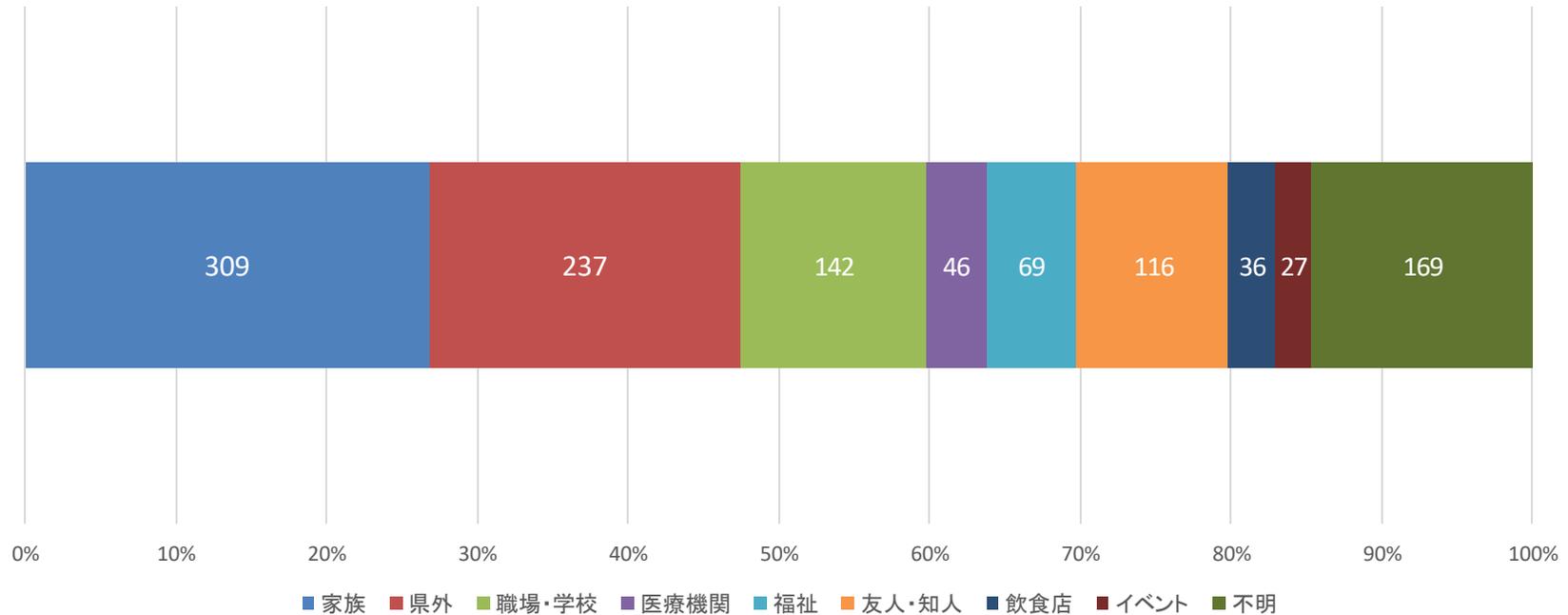
- 本県では、2月に院内感染で始まり、3月から県外の持ち込みが多くなった。
- 第二波の7月も県外からの持ち込みが多くなるとともに家族内感染が多くなった。
- 第三波では、引き続き家族内感染や県外からの持ち込みが多い。特に1月には県外からの持ち込みが家族内感染や職場内感染へとつながる事例が多く発生した。



感染経路

(2月15日現在 n = 1151例)

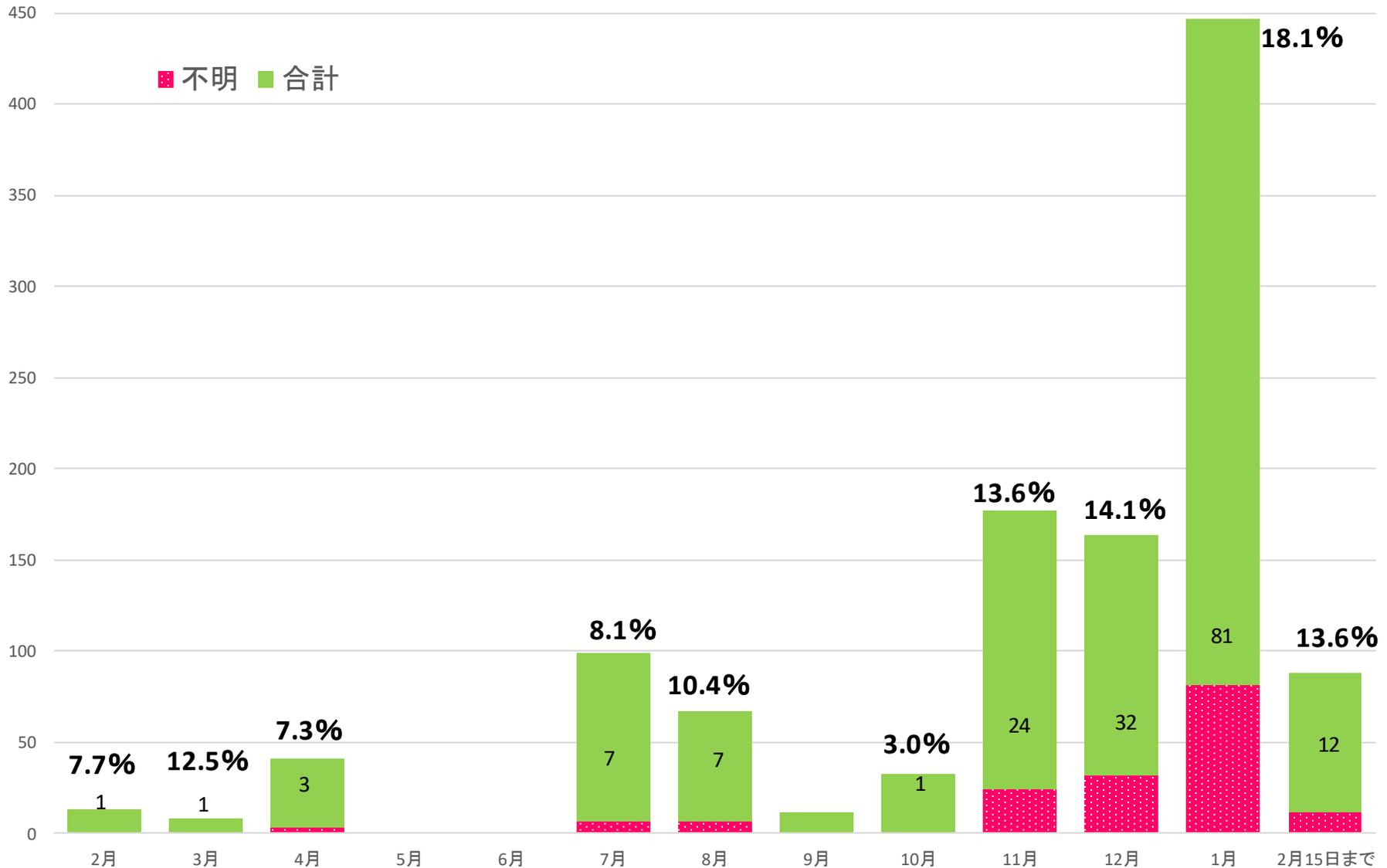
- 本県では、感染経路としては家族内が最も多く、次いで県外に出かけてまたは県外から来られての感染が多い。
- 職場内感染や友人間感染も多い。医療機関でクラスターが4件発生したが、感染拡大は最小限で食い止められている。



	家族	県外	職場 学校	医療 機関	福祉	友人 知人	飲食店	イベント	不明	合計
合計	309	237	142	46	69	116	36	27	169	1151

感染経路不明の割合 (2月15日現在 n=1151例)

○ 第三波が始まった11月から感染経路不明者の割合は増加している。感染者が急増した1月には、その割合は2割近くになり、これまでの最高となったが、和歌山市に多い。



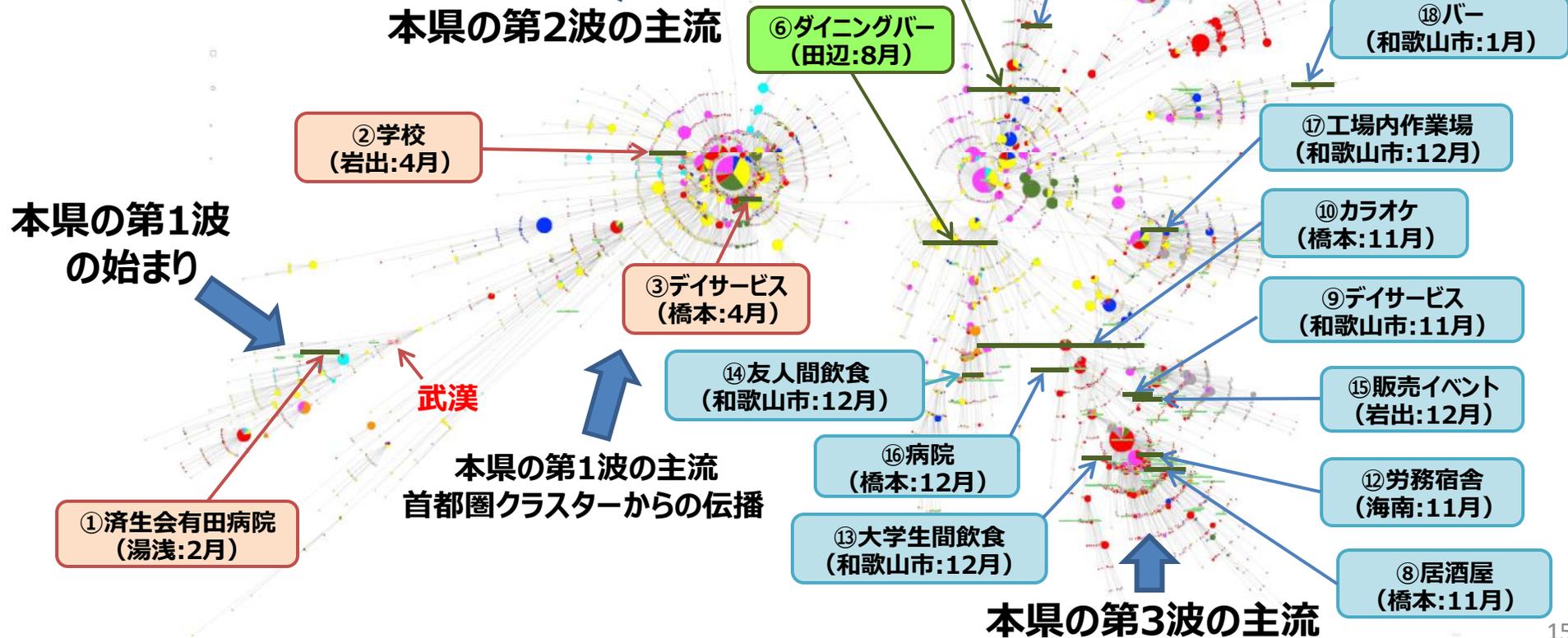
新型コロナウイルスのゲノム解析（主なクラスター発生事例）

国立感染症研究所
病原体ゲノム解析研究センター提供

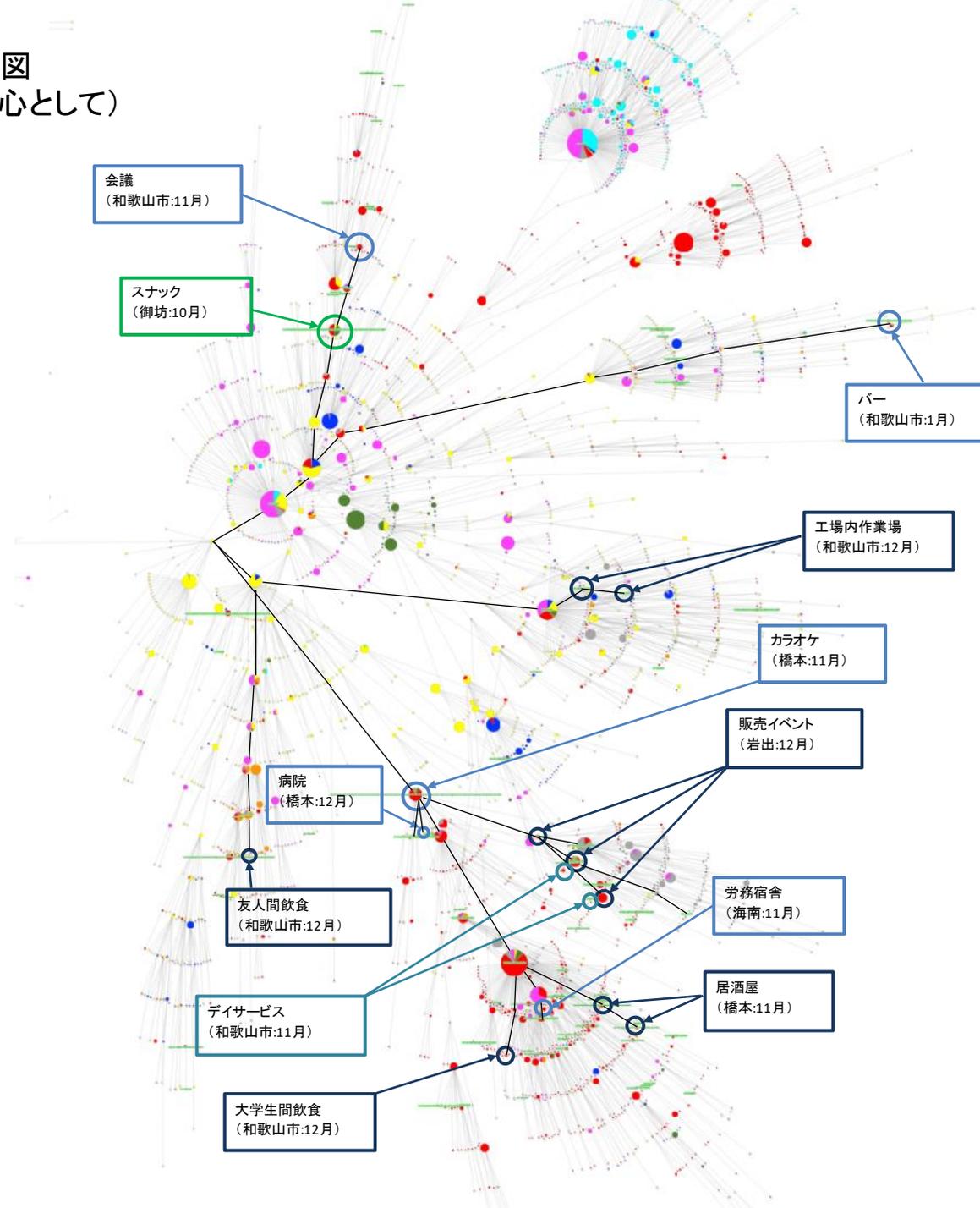
※図中の濃い緑線は本県集団感染者の遺伝子解析結果を、
薄い緑線は本県感染者の遺伝子解析結果を示す。

- 第1波（2月～4月に発生）
- 第2波（7月～10月に発生）
- 第3波（11月～1月に発生）

- 北海道
- 東北
- 関東
- 北陸・信州
- 中部
- 関西
- 中国・四国
- 九州

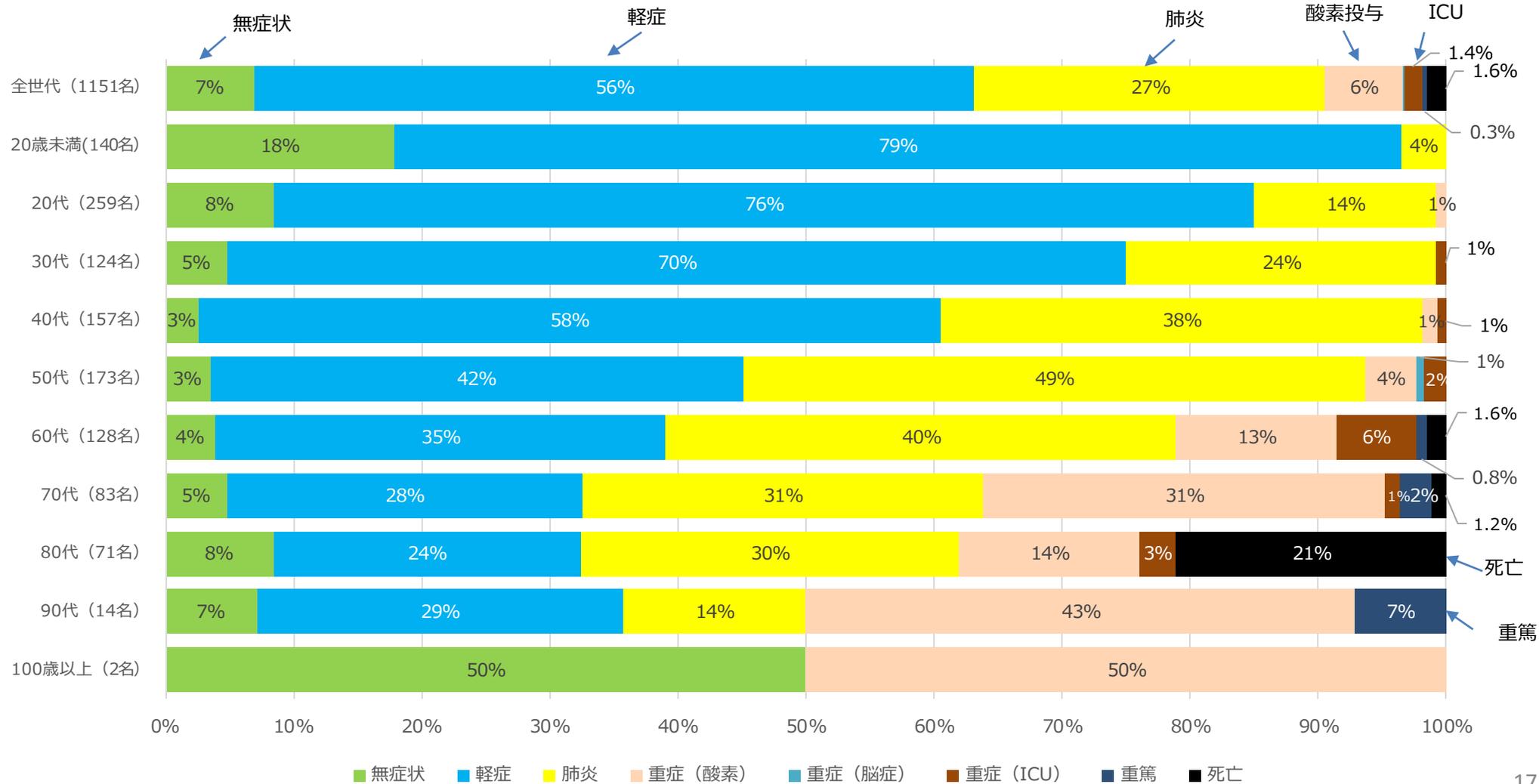


ハプロタイプ・ネットワーク図 (第三波のクラスターを中心として)



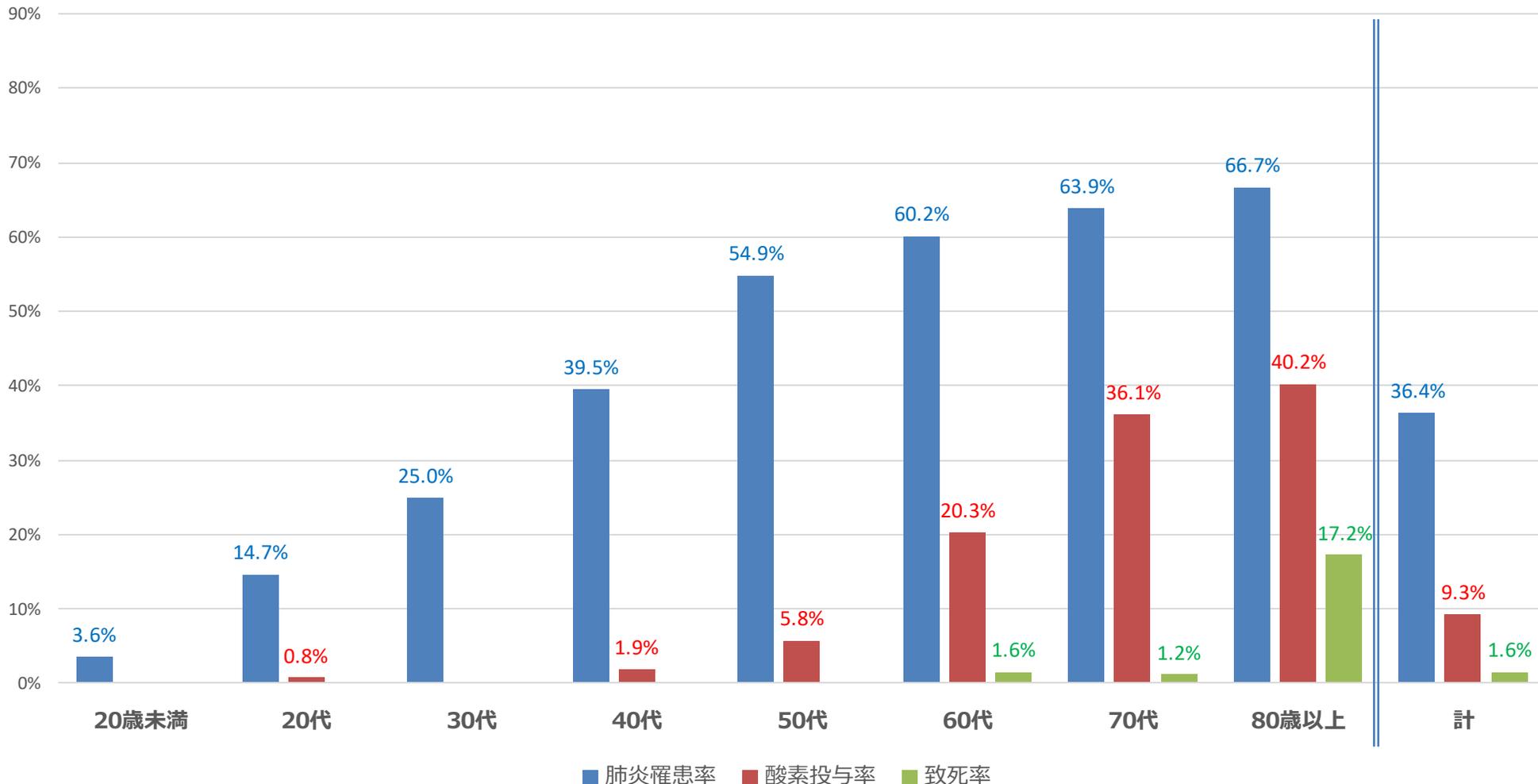
感染者の重症度 (2月15日現在 n = 1151例)

- 本県の感染者の重症度は無症状が7%、軽症が56%、肺炎併発で酸素投与が不要が27%、酸素投与必要が6%、酸素投与かつI C U入室が1.4%、死亡が1.6%であった。
- 20代以下は無症状や軽症で経過する。80代は重症者が多く死亡者が多いことは注意が必要である。



年代別肺炎併発率・致死率等重症割合

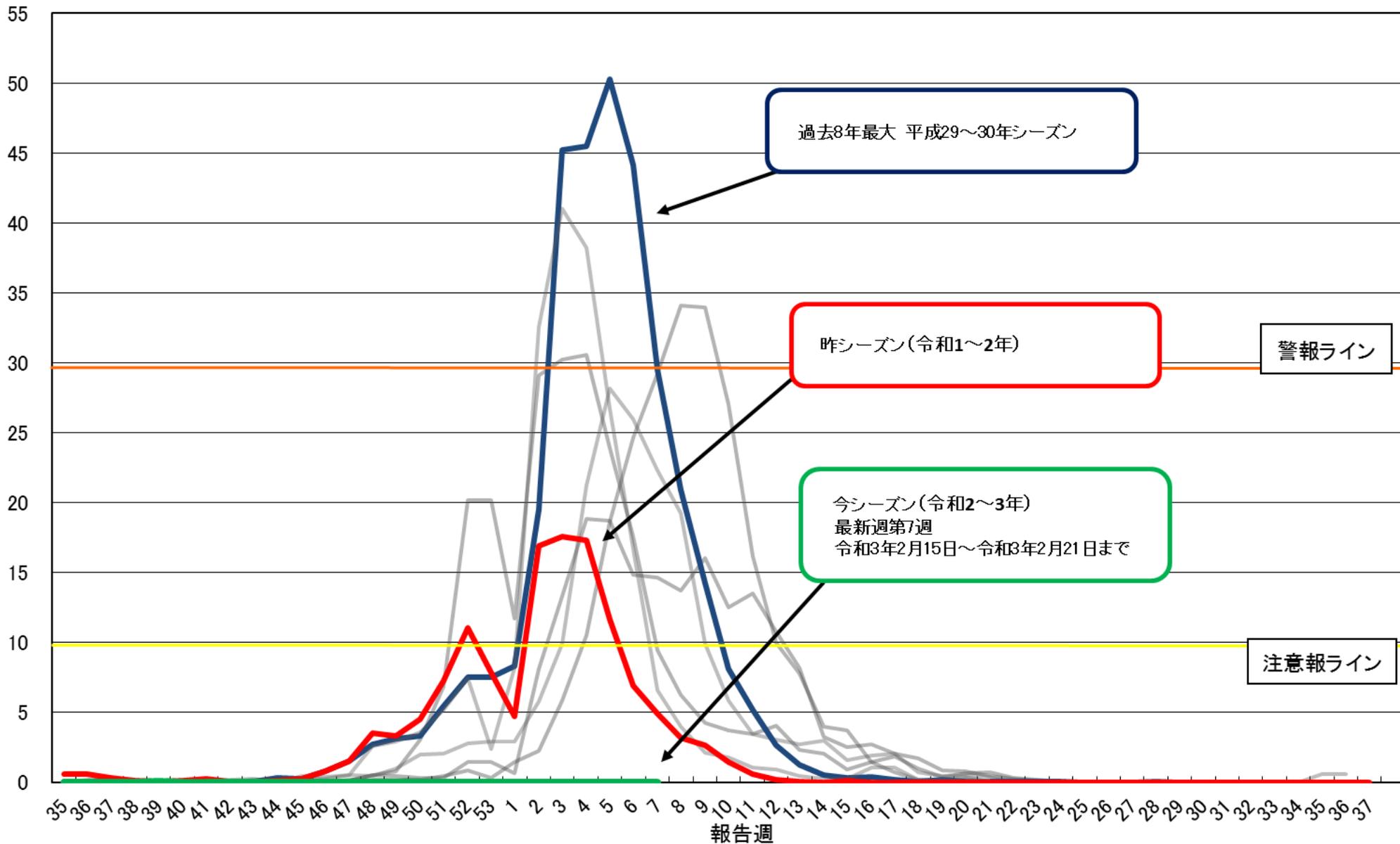
(2月15日現在 n = 1151例)



○ 肺炎併発は50代で半数を超え、60代以上で酸素投与が必要な者が増加し、高齢者では致死率が高くなる ⇒ 高齢者の集団発生を防止することが医療提供体制の維持につながる

定点当たり報告数

本県のインフルエンザ定点当たり報告数の推移(県内49定点医療機関集計分)



まとめ

- ① 1 1 月から始まった第三波は活動の活発な若者から感染が拡大し、その後全年代に感染が拡大した。特に、7 0 代以上の高齢者の感染者数が増加し、基礎疾患を持っていることから重症化し、死亡者も増加した。一方、1 0 歳未満の子供の感染者も増加した。
- ② クラスターの発生も第三波では多発し、とくに和歌山市において発生が多かった。施設では特に高齢者福祉施設、病院での発生が多くなり、これに伴い基礎疾患を持つ高齢感染者が増加した。一方、これまでクラスターとならなかった幼稚園、保育所で集団発生が見られたことから今後の発生動向を注視する必要がある。
- ③ 当初陽性者が確認されてからの濃厚接触者等の感染状況は、第三波では、1 人の感染者に対して1. 6 1 人の感染者の発見が見られた。第三波ではクラスターの発生も多く、しかも1 3 人以上の感染者が確認される事例が多かった。
- ④ 感染者が曝露を受けてからいつ発症しているかを疫学調査から推定すると、曝露後3 日後が最も多く、平均4. 7 日後であった。最長1 4 日後もいたが、特に第三波では1 1 日以降に発症する事例が多くみられた。
- ⑤ 感染者が他者に感染させたと推定される日については、発症当日が最も多く、平均発症0. 3 日前であった。また、最も早い日はこれまで発症3 日前と推定していたが、第三波では発症4 日前と推定される事例が3 件あった。
- ⑥ 感染経路では、家族内感染、県外での感染が多い。感染が特に拡大した1 月では感染経路不明が増加しており、また、既に公表した抗体検査でも新型コロナウイルス感染者と確認されていない患者で陽性者がわずかながらいたことから一部で市中感染が起きている可能性を否定できない。
- ⑦ ウイルスの遺伝子解析からも県外から持ち込んで県内で感染が拡大しクラスターとなっている事例が多くみられ、まさに人の行動に伴って感染の伝播が起こっている。
- ⑧ 感染者で肺炎が確認された事例を見てみると、年代とともに肺炎の併発が多くなっている。また特に、6 0 代以上で酸素投与が必要な者が増加している。さらに8 0 代以上では感染者6 人に1 人の致死率となっている。高齢者は基礎疾患を持っており、重症化しやすい。

考 察

- 発症の数日前からまた無症状や軽症で経過する人から家族内、職場、友人へと感染が拡大することから全ての人がマスクの着用や手洗い・手指消毒の励行や密にならないようにすることが重要である。
- 感染がいったん拡大すると、捉えきれない陽性者がわからないうちに入院したり、施設に入所したりして院内感染や施設内感染を起こし、集団感染となりうるため新規入院患者等へのスクリーニング検査は有効と考える。
- 特に基礎疾患を持つ高齢者は重症化することから高齢者の集団感染を防止することが、医療体制の維持のためにも重要である。従って、院内感染、高齢者福祉施設内・在宅介護等の感染予防が極めて重要である。
- 感染者が確認されてから迅速に積極的疫学調査を行い、濃厚接触者はもちろんのこと接触状況を考慮しつつ幅広くPCR検査を行うことは感染拡大防止のために今後とも重要である。
- 今後、第四波の発生も危惧されるが、さらなる分析を行い、保健医療関係者に情報提供し感染対策に活かしていくとともに報道関係者の協力も得て県民に広く周知する必要がある。